令和2年1月28日

令和2年 第1回

東大和市教育委員会定例会会議録

東大和市教育委員会

令和2年第1回東大和市教育委員会定例会会議録

1. 日 時 令和2年1月28日（火曜日）午後2時00分～午後3時18分

2. 場 所 中央公民館301学習室

3. 出席委員 1番 真 如 昌 美（教育長）

2番 岩 田 圭 子

3番 藤 宮 志津子

4番 新 藤 久 典

5番 内 野 裕 子

4. 欠席委員 なし

5. 説明職員

学校教育部長 田 村 美 砂

社会教育部長 小 俣 学

学校教育部
参 事 兼 佐 藤 洋 士

教育総務課長 石 川 博 隆

教育指導課長

建築課長兼

教育施設担当 中 橋 健

給食課長 齋 藤 謙二郎

副 参 事

統括指導主事 吉 岡 琢 真

社会教育課長 高 田 匡 章

中央公民館長 佐 伯 芳 幸

中央図書館長 當 摩 弘

6. 書 記

主 事 後 藤 梨里香

○議事日程

- 第1 会議録署名委員の指名
- 第2 教育長諸務報告
- 第3 第1号議案 令和2年度東大和市教育委員会の主要施策について
- 第4 第2号議案 東大和市立学校の適正規模及び適正配置等の方針（案）及び東大和市立小・中学校再編計画（案）について
- 第5 第3号議案 東大和市学校運営協議会規則
- 第6 第4号議案 東大和市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則
- 第7 第5号議案 東大和市いじめ問題対策連絡協議会委員の任命及び委嘱について
- 第8 第6号議案 令和2年度東大和市学校給食事業計画（案）及び令和2年度東大和市学校給食会計予算（案）の諮問について

◎開会の辞

○真如教育長 ただいまから令和2年第1回東大和市教育委員会定例会を開催いたします。

◎日程第1 会議録署名委員の指名

○真如教育長 日程第1、会議録署名委員の指名を行います。
会議録署名委員は、岩田委員をお願いいたします。

◎日程第2 教育長諸務報告

○真如教育長 日程第2、教育長諸務報告を行います。

令和元年12月27日から令和2年1月24日までの諸務報告であります。

令和元年12月27日、金曜日、東大和市市制50周年記念事業及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組推進本部会議に出席をいたしました。

令和2年1月7日、火曜日、定例校長会に出席をいたしました。

1月10日、金曜日、教育委員懇談会に出席をし、市長と教育委員の年頭懇談会に出席をいたしました。

1月12日、日曜日、東大和市消防出初式に出席をいたしました。

1月13日、月曜日、第66回東大和市成人式に出席をいたしました。

1月14日、火曜日、第2回東京都学力向上施策検討委員会に出席をいたしました。ここでは学力調査の結果の分析とその分析の方法について、どんなふうに生かしていくかも含めて話題となりました。教育委員会では、指導主事が中心となって結果についてまとめて分析を行っているということですが、委員の中からなかなかそれじゃ追いつかないという話が出て、東京都として何か良い方法はないか、質問がありました。東京都のほうも分析といってもそれぞれがそれぞれの形で行っているものですから、調整して新しい取組方を考えていくという話をしてられました。

それから、1月15日、第七小学校の算数ドリル実践学習会を視察いたしました。

1月17日、金曜日、港区立赤羽小学校を訪問いたしました。シンクタンクで参

りましたので、校長先生方と一緒に赤羽小学校を訪問いたしました。プログラミング教育の取組の様子を先進校ではどのようなことを行っているのか、学校の方、それから業者の方あわせていろいろな質問をしたり、見せていただいたりしてきました。

1月18日、土曜日、第39回東大和市立小・中学校連合書き初め展を視察いたしました。今年は中央公民館が工事中のため、第六小学校を会場として開催をさせていただきました。

1月20日、月曜日、第11回総合計画策定本部会議に出席をいたしました。

1月22日、水曜日、第一小学校の国語教育課題研究指定校発表会を視察いたしました。

1月23日、木曜日、東大和市青少年問題協議会に出席をいたしました。

1月24日、金曜日、第二小学校のプログラミング推進教育指定校の発表を視察いたしました。港区の赤羽小学校とはまた違った形の学習の様子を見られて大変参考になりました。

以上であります。

教育長諸務報告が終わりました。

ただいまの報告につきまして、ご質疑等ございましたらご発言をお願いいたします。

どうぞ。

○新藤委員 先ほど真如教育長が話しました14日の第2回東京都学力向上施策検討委員会の折で、その結果をどう分析して活用していくかというところで、学校ごとに行っていたのでは間に合わないのではないかと委員の話があったということですが、私も常々思っていて、実は今杉並区で1校、いわゆるコミュニティ・スクールにかかわっているのですけれども、杉並区は済美教育研究所があるのですが、そこに分析の専門官を1人雇っていて、教員を対象とした分析の仕方と結果をどう読み取るかということについての研修会を年に何回か行っていると同時に、各学校の分析をしてどう活用していったら良いのかという質問に対しても巡回的に答えてくれることを、やはり専門家の力をかりるといことも今後は必要になってくるのではないかなと思います。ただ、それは各学校が自分で探して行うわけにはいかないのです、できれば教育委員会で、杉並区のようにうまくいかないかもしれませんが、分析の専門家の協力を得るという発想は、

今後必要になってくるし、より確実な学力向上施策の構築等にもつながってくるのではないかなと思います。各学校が抱えている課題というのは、それぞれ小学校10校、中学校5校みんなそれぞれ背景が違うので、今後何らかの形で実現できたら良いなと私も今教育長の話聞きながら思いました。

以上です。

○真如教育長 そうですね。東京都も考えているようで、東京都として分析をする方向まではいっていないようで、実現していけるようにしていきたいという返事がありました。

ほかにございますか。

(発言する者なし)

○真如教育長 それでは、次にまいります。

◎日程第3 第1号議案 令和2年度東大和市教育委員会の主要施策 について

○真如教育長 日程第3、第1号議案 令和2年度東大和市教育委員会の主要施策
について、本件を議題に供します。

報告の説明をお願いいたします。

学校教育部長。

○田村学校教育部長 ただいま議題となりました第1号議案 令和2年度東大和市
教育委員会の主要施策につきまして、提案理由並びに内容のご説明を申し上げます。

本件は、東大和市の教育に関する大綱及び第二次東大和市学校教育振興基本計画の施策の方向性に基つき、令和2年度に東大和市教育委員会が重点的に取り組む施策を示したものであります。

それでは、第二次東大和市学校教育振興基本計画の3つの大きな柱ごとに主だった内容についてご説明を申し上げます。

3ページをお開きください。

柱の1つ目、I、生きる力の育成の1の1、確かな学力の(1)学力向上では、③といたしまして、各校が学力向上を目指して組織的に研究に取り組み、日々の授業改善につなげるとともに、各学校の校内研究の成果を他校へと波及させるために、市内全小・中学校を学力向上推進校に指定するとしております。

また、その下の⑩といたしまして、学習指導要領の趣旨を踏まえた適正な教育課程の具現化を図る。特に、プログラミング教育や外国語活動・外国語を各学校が工夫して実施できるように支援するとしております。

続きまして、4ページをお開きください。

下段のほうになります。2、豊かな人間性、(2)いじめ問題への対応であります。本年1月から施行された東大和市いじめ防止対策推進条例に基づくとともに、東大和市いじめ防止対策推進基本方針を踏まえて、学校、家庭及び地域が連携したいじめ防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するとしております。

続きまして、5ページをご覧ください。

⑤では東大和市いじめ問題対策連絡協議会、⑥では東大和市教育委員会いじめ問題対策委員会の設置及びそれぞれが担う役割について規定をしております。

6ページをお開きください。

4、オリンピック・パラリンピック教育の推進の(1)オリンピック・パラリンピック教育の推進であります。②で開催年である令和2年度は、競技観戦を通じて児童・生徒一人一人の心にかげがえのない記憶と貴重な機会となるよう支援し、大会終了後は、5年間のオリンピック・パラリンピック教育を総括し、引き続き有効な取組を継続していくよう、各学校において計画していくとしております。

続きまして、隣のページから柱の2つ目のIIの学校の活性化となります。

8ページをお開きください。

2の人材育成、(1)教員の研修の充実であります。⑥といたしまして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するために学習指導方法に関する研修を実施するとしております。

その下の3、環境整備、(2)学校施設等の整備では、①としてトイレの洋式化を進める、また体育館のエアコン整備を進めていくとしております。

9ページをご覧ください。

(4)教育環境の整備としまして、児童・生徒にとって快適な教育環境を確保するため、東大和市公共施設等総合管理計画等を踏まえた学校の適正規模及び適正配置等の新たな方針に即した学校の再編計画に取り組むとしております。また、統合型校務支援ソフトの円滑な導入に向けて、研修や試行運用等を計画的に実施していきます。

(7) アレルギー疾患への対応としまして、次の10ページになりますが、③といたしまして、アレルギー詳細献立表を作成するとともに、アレルギー対応としまして、これまでの除去食に加えまして代替食を開始いたします。

続きまして、柱の3つ目、Ⅲ、家庭、地域との連携、2、地域との連携であります。が、(1) 地域に開かれた学校運営の推進の③で、令和5年度までにコミュニティ・スクールを市内全ての小・中学校に設置するため、導入に向けた取組を促進していくとしております。

続きまして、11ページをご覧ください。

Ⅳ、生涯学習・生涯スポーツ推進事業の2、市民文化の振興、(1) 郷土文化財の保存・継承と文化施設の整備では、③としまして、令和元年5月に改定した旧日立航空機株式会社変電所保存の基本方針に基づき、保存・改修工事を行うとしております。

3、スポーツ・レクリエーションの推進、(2) 施設の利用促進では、既存の社会教育施設(公民館等)、社会体育施設(市民体育館等)の利用促進を図るだけでなく、学校教育施設(校庭、体育館等)、自治大学校グラウンド、警視庁グラウンドその他民間施設等の有効活用を図ることにより、文化・スポーツ活動の場の確保に努めるとしております。

説明は以上となります。よろしくお願ひいたします。

○真如教育長 説明が終わりました。

ご質疑があれば、ご発言をお願いいたします。

新藤委員。

○新藤委員 内容的には非常に良く精査されていて、主要施策として体系的に良くまとめていただいているなど思っております。全力を挙げて推進していただきたいなと思います。

まず1点は、1の確かな学力のところですが、どうしても今の学校の実態等を考えると、テスト等ではかれる点数化するような学力順位、全国平均を上回った、下回ったという数値的なところばかりに目がいていて、実は人間というのはもっと広い意味での学力をもっていて、広義の学力、つまり情意面で感性、寛容性、道徳性や思いやりの心、情意面の力というのはとても重要で、ブータンで幸福力という言葉が使われていましたけれども、人間というのは、お金や物の豊かさなどで幸福を感じるというよりは、心が充足されていく意味でのこの幸福

感というのがこれから必要だと思います。みんなが物的に豊かになれるわけではないし、一人ひとりが心の幸福力を考えていくと、広義の学力を小学校、中学校のうちにしっかりと考え方を育てていくという意味では、ぜひ確かな学力の一面には、間違いなく情意面の学力があるのだということをしかりと捉えて、抜かりのないように力を込めて行っていただきたいなとお願いをしておきたい。各学校の校長先生等に伝えていっていただいて、学校だより等を見させていただきますと、どうしても目先の学力が前面的に出てきている気がするものですから、心の力といったところをぜひ今後とも考えていただきたいと思います。

それから、もう1点申し上げると、前回二小の発表を見させていただいて、プログラミング教育ってどんなものだろうか。授業を見て思ったのですけれども、見ている間に仕組みが良くできているなと思いました。今ここまで進んでいるのだということで見ました。

ただ、心配になったのは、特に若い女性の先生だったようですけれども、巡回しながら、「私には無理、うちの学校じゃ無理。」とそういう言葉が平気で出ていました。じっくり1年生から6年生まで順序立てていくと、小学校におけるプログラミング教育は仕組みが明確に見えていたと思います。先生方にもう一度しっかりと捉えていただきたいということと、それから佐藤参事も話をさせていただいたのですが、環境整備が重要です。私は加藤先生の発表、講演を聞かずに失礼してしまったのですが、全国の47都道府県の校長会の代表が集まって、文部科学省の初中局の各課の課長からレクチャーを受けるような会があったのでそちらに出席をさせていただいたのですが、その各課の課長が異口同音に来年度の取組でおっしゃっていたのは、1つは、一番多かったのはG I G Aスクールのこと、ぜひ積極的に手を挙げていただいて、一番で行っていただきたい。そして、区市町村の教育委員会に働きかけてくださいということ、課長が言っていたのですけれども、私もそう思って、折角こういうシステムができて、2022年までに整備することになっていきますけれども、できれば早いほうが良いなと思いました。真っ先に手を挙げて、G I G Aスクールの実現に向けて積極的に国の予算も使いながら、子どもたちに少しでも恵まれた環境で行えるかなというのが1点と、何よりも心配したのが中学校のことでした。小学校で進んだ教育を受けてしまうと、中学校の技術科の情報教育だけで間に合うだろうかと思うと、施設設備も含めて心もとないなと思いました。そうすると、公立学校が捨てられてしまうのではな

いか心配になります。折角小学校でここまでプログラミングのことがいろいろわかってきて、興味を持ってきているのだから、公立中学校に入学したら、興味が薄れてしまうから、私立の施設設備が整っている小学校へ入学して、将来システムエンジニアにさせたほうが絶対良いのではないかとということを保護者は考えざるを得なくなっているのかなと思います。

この6月に孫が生まれるので、もう既に孫がどういうふうにしていくかが気になるぐらい、公立中学校のICT環境をどう整えていくか今回の第二小学校の研究発表は非常に鋭い指摘を与えられたなと思いました。何人かの中学校の校長と話をしたのですけれども、同じように危機感を感じていらっしゃるだったので、ぜひ教育委員会としてGIGAスクールをどう利用していくかお願いしたいと思います。2点でお願いします。

○真如教育長 何かございますか。

どうぞ。

○佐藤学校教育部参事兼教育指導課長 ありがとうございます。

まず、学力の向上についてでありますけれども、主要施策3ページ、大きな1番、生きる力の育成、新しい学習指導要領につきましては、これまでも何度かお話をさせていただいておりますけれども、ここに書いてあるとおり、今回の学習指導要領の中では、これからの子どもたちに必要な資質・能力という点で、その大きな柱を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」、この3つが柱となっております。当市においても、学校教育振興基本計画の中で知徳体のバランスのとれた子どもたちの育成というところを大きな柱としております。したがって、この新学習指導要領に示されている3つの大きな資質・能力の柱と私どもが掲げている生きる力の3つの力、これは大変大きくリンクするものだと考えております。

したがって、振興基本計画の中での大きな指標としては、学力向上の視点では、国及び東京都の平均点を全校が超えるというところにあるわけですが、それはこの3つの資質・能力をやはりさまざまな場面でバランス良く育てていく、その結果として学力にも反映がなされていくということを目指すべきであると考えております。

したがって、確かに学校だよりの中で学力面のところだと、どうしても点数等のところの分析が多いかもしれませんが、その中でも紙のほうの意

識調査をきちんと分析している学校もこれは随分出てきております。その学力の背景というところに随分切り込んできているなということを感じておりますので、そういったところも踏まえてバランス良く育てていき、結果として学力が向上できるような働きかけと仕組みづくりをこれからも進めてまいりたいなと思っております。

続きまして、プログラミング教育とGIGAスクールについてであります。まずGIGAスクールについては、昨今国のほうが大きな補正予算を組んで、間もなく決定がなされるというところであると思っております。当市においても、先日、私文部科学省の行政説明を聞きに行きまして、大変大きな事業であるという認識とともに、市でも3クラスに1クラス分のパソコンを用意することを目指すということで学校振興基本計画には示してありますが、その先に行く1人1台というところを国のほうは目指しておりますので、この機会に国の施策に乗らない手はないなというところは感じております。ただ、どこまで実現できるかというのは、もちろんこれから研究をして、検討をして早急に方向性を見出して、市の市長部局とも協力をしながらできる限りの努力をしてまいりたいと考えております。

このような形で、市の学校のICT環境がより強化をされていくことで、小学校まで培ってきた力を中学校でもより発揮できるような環境づくりにも寄与するものであると考えております。確かに現在中学校では、テレビの大型モニターが全然なく、なかなか小学校に比べて環境整備が十分でないところがありますけれども、少しずつ市のレベルでも改善を進めながら、私立学校に行かなくても良い環境づくりにも寄与できたら良いなと考えております。

以上であります。

○新藤委員 ありがとうございます。

○真如教育長 ほかにございますか。

○新藤委員 もう一ついいですか。

○真如教育長 新藤委員。

○新藤委員 今、佐藤参事がおっしゃるとおりだと思います。ただ、私は広義の学力というその学力を心配しているというのは、実はその学びに向かう力、人間性等というのが3つの柱としてありますけれども、実際は、いわゆる評価の観点のところていくと、知識、技能と思考力、判断力、表現力ともう一つが主体的に学

びに取り組む態度となって、人間性という言葉が消えているものですから、教員たちの意識は、私の知っているいろいろかかわっている、特に中学校ですけれども、教員の意識では、全く人間性という言葉が飛んでしまっているのですよね。学力の3つの柱の1つとして人間性が入っていますよと言ってますけれども、完全に抜け落ちていて、主体的に学びに取り組む態度が学びに向かう力にしか意識がいないという教員たちが圧倒的に多いというのはもう事実だと思います。今後とも東大和市の施策を丁寧に説明していただいて、教員たちに絶対見落とさないように、本当の意味での学力を支える根本、土台になっているところは情意面なのだというところをしっかりと理解していただけて行えるように進めていただければと思っていますので、よろしくお願いします。

以上でございます。

○真如教育長 よろしいですか。

(発言する者なし)

○真如教育長 質疑を終了いたします。

お諮りいたします。

日程第3、第1号議案 東大和市教育委員会の主要施策について、本件を承認することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○真如教育長 ご異議なしと認め、第1号議案 東大和市教育委員会の主要施策について、本件を承認と決めます。

◎日程第4 第2号議案 東大和市立学校の適正規模及び適正配置等の方針(案)及び東大和市立小・中学校再編計画(案)について

○真如教育長 日程第4、第2号議案 東大和市立学校の適正規模及び適正配置等の方針(案)及び東大和市立小・中学校再編計画(案)について、本件を議題に供します。

議案の説明をお願いいたします。

学校教育部長。

○田村学校教育部長 ただいま議題となりました第2号議案 東大和市立学校の適正規模及び適正配置等の方針(案)及び東大和市立小・中学校再編計画(案)に

つきまして、提案理由並びに内容のご説明を申し上げます。

本件は、東大和市公共施設等総合管理計画及び東大和市公共施設等マネジメント行動計画（第1次アクションプラン）の趣旨に基づき、将来にわたり児童・生徒にとって快適な教育環境を確保するために、東大和市立学校の適正規模及び適正配置等の今後の方針及びそれに基づく再編計画について定めるものであります。

それでは、具体的な内容についてご説明いたします。

表紙をおめくりください。

東大和市立学校の適正規模及び適正配置等の方針（案）についてであります。

1番、基本的な考えとしまして、今後、確実に進む少子化と、学校施設の老朽化やそれに対応する財政負担等の課題に対応しながら、将来にわたり快適な教育環境を確保することが必要であることから、平成29年2月に策定した東大和市公共施設等総合管理計画の趣旨に基づいた学校の適正規模及び適正配置とすることを基本的な方針と定めております。

次に、2、適正規模・適正配置に向けた取組では、1の基本的な考え方に基づき、（1）として標準規模を下回る小学校への対応、（2）として中学校グループの見直し、（3）として児童・生徒数偏在の是正について示し、また（4）において具体的な実施時期については後の再編計画で示すものとしております。

ページを1枚おめくりください。

3、特別支援教育の充実では、平成31年度から市内の全小・中学校で特別支援教室が設置されたことに伴い、今後も教室の確保等、環境整備に努め、特別な支援を必要とする児童・生徒一人ひとりのニーズに沿った指導体制の充実を図るものとしております。また、将来開校予定の都立北多摩地区特別支援学校（仮称）との連携も検討するとしております。

4、関連部署との連携では、小・中学校は各地域のコミュニティの核という側面において、さまざまな機能になっていることから、今後の学校の適正規模・適正配置に当たっては、関連部署との連携を図りながら検討を進めるとしております。

最後に、5、その他として、学校規模及び学校配置の適正化を図る際には、激変緩和措置策の導入の検討や通学区域の弾力化については、今後の社会状況や教育環境に変化があった場合には、方針を適宜見直すことを示してしております。

つきまして、東大和市立小・中学校再編計画（案）についてご説明を申し上げ

ます。

こちらの中表紙をおめくりいただきまして、1ページをご覧ください。

はじめにといたしまして、東大和市における学校規模等の適正化のあり方について、これまでの検討経過に触れ、平成25年5月に策定した従前の方針の後に、少子高齢化の進行に加えて、学校施設の老朽化と財源の問題が新たにあらわれ、子どもたちが安心して授業を受けるための環境整備の方策が急務となっているとしております。そして、今後の学校規模等のあり方について改めて検討すべく、平成30年8月から令和元年6月まで東大和市学校の適正規模等のあり方検討会議を設置してさまざまな意見を聴取いたしました。子どもたちの健やかな成長を願い、学校の統合や通学区域の変更もやむを得ないとする検討会議からの意見を踏まえ、これまでの方針を全面的に見直すとともに、これに基づく東大和市立小・中学校の再編計画を策定したと示しております。

2ページになります。

そして、今後は、東大和市の児童・生徒にとって快適な教育環境を目指し、本計画に取り組む決意を表明しております。

次に、その下の1、東大和市の目指す学校像、(1)子どもたちの将来像として、東大和市教育委員会が目指す人間像が子どもたちの将来像として捉え、3つを掲げております。これらを実現するために、第二次東大和市学校教育振興基本計画にも掲げております計画の強調点を確かな学力、豊かな人間性、健康・体力、オリンピック・パラリンピック教育とし、各学校の特色を生かした教育を進めているとしております。

3ページをご覧ください。

(2) 東大和市の学校の現状として、グラフ等を用いて現在の状況を示しております。

①として年少人口推計、続きまして4ページでは、②といたしまして児童・生徒数、続きまして6ページとなりますが、③といたしまして1校あたりの学級数と④として学校施設の老朽化について述べております。

7ページをご覧ください。

(3) 適正規模の学校を作るとして、小規模の学校のメリット及びデメリットを挙げ、どのような理由で一定規模の児童・生徒の集団が確保されていることが望ましいことなのか、教育委員会の考えを示しております。

続きまして、9ページをご覧ください。

2、東大和市立小・中学校再編計画の概要といたしまして、本計画は、全面的に改めた「東大和市立学校の適正規模及び適正配置等の方針」に基づき策定したものとしております。

(1)の計画の位置付けといたしまして、東大和市公共施設等総合管理計画を初めとする各計画との関係性をわかりやすく示しております。

続きまして、10ページをお開きください。

(2)再編に関する考え方として、基本的な進め方について、10項目にわたり具体的に列挙をしております。

11ページをご覧ください。

(3)計画期間であります。令和2年度から令和11年度までの10年間としております。将来的な教育行政課題への対応や東大和市公共施設等マネジメント行動計画(第1次アクションプラン)の方針等に合わせて適宜見直すとしております。

(4)東大和市学校施設長寿命化計画についてであります。本計画との関連が最も強いと考えられますことから、その概要について記載をしております。

続きまして、12ページをお開きください。

3、東大和市立小・中学校再編計画の具体的内容としまして、計画の優先度合いの高いものから記載をしております。

(1)第九小学校の第七小学校への統合として、今後2校とも小規模校となる見込みが高いため、統合に向けて具体的な検討を進めることといたします。統合の時期は、13ページにも記載がありますが、令和9年4月を目途と記載をしております。

14ページをお開きください。

(2)第三小学校の第五小学校への統合と第五小学校・第六小学校の通学区域の変更として、第三小学校の第五小学校への統合に向けて検討を進めていきます。その際に第五小学校、第六小学校の通学区域を見直して、両校の児童数の均衡を図ることといたします。統合、再編の時期は、令和11年4月を目途と記載をしております。

(3)第二小学校・第八小学校の通学区域の変更として、市南西部において多摩都市モノレール駅周辺の開発に伴い、人口が急激に増加し、児童・生徒数も増

加をしております。その結果、隣接する第二中学校及び第四中学校において、生徒数の隔たりが顕著となってきておりますことから、第二小学校と第八小学校の通学区域の変更を行うことといたします。

続きまして、（４）第五小学校の通学区域の変更として、現在通学区域が第二中学校と第三中学校と２つの中学校に分断されている第五小学校の状況について、小中一貫教育の取組に少なからず影響を与えているものと考えられますことから、通学区域の見直しを検討するものでございます。

15ページをご覧ください。

（５）第一中学校・第五中学校の統合の検討として、十数年後には、市北部の第一中学校、第五中学校はそれぞれ小規模校となることが予想されます。このことから、小学校の再編後には、中学校の統合も検討していく必要性があることについて触れております。

続きまして、16ページをお開きください。

４、地域の拠点としての学校施設のあり方として、学校は教育施設であると同時に、地域の身近な公共施設であり、放課後児童クラブや防災拠点としての役割、地域コミュニティの拠点としての役割を担っているため、学校が統合することでこれらの役割についても支障が生じることのないようにする一方で、厳しい財政状況も考慮に入れながら、地域の拠点としての学校施設のあり方について、教育委員会及び学校関係部局で検討を進めていくこととしております。

18ページをお開きください。

５、再編のスケジュールといたしまして、先ほど説明いたしました東大和市立小・中学校再編計画の具体的内容に記載をされております（１）から（５）までの実施時期につきまして、大まかなスケジュールを記載しております。

なお、これらは東大和市学校施設長寿命化計画によります既存の小・中学校施設の改修計画案との整合性も鑑みております。

以上が本計画案の概要であります。

なお、巻末には参考資料といたしまして、過去の実績値と東京都の計算した推計値を参考に市の人口推計の増減率を参考として推計しました。令和18年度、2036年度までの学級数、児童・生徒数の推計を現行の学校ごとに掲載をしております。

なお、本日、本方針案及び本計画案の内容についてご承認をいただけましたら、

準備を整えた後に市民の皆さまよりパブリックコメントとしてご意見をいただく予定でございます。その後、内容の修正等を踏まえ、定例会にて議決をいただく予定としております。

説明は以上となります。どうぞよろしくお願いいたします。

○真如教育長 説明が終わりました。

ご質疑があれば、ご発言をお願いいたします。

内野委員。

○内野委員 今までも何度かご説明をしていただいて、いろいろと私も考えたのですが、(5)の第一中学校と第五中学校の統合の検討というのは、今回の計画に練り込んでいけないといけない部分でしょうか。

どうしてそういうふう感じたかといいますと、今回この5つのことが出てきますけれども、やはり第九小学校と第五中学校という蔵敷地区の子どもたちからすると母校が何年後かになくなってしまおうという衝撃的な内容だと思います。私もその地区に住んでいるということもありまして、この地域の方たちはとてもコミュニティ・スクールでも本当に活躍されていて、すごく協力的な地区の人たちですので、これを見たときにどう感じるかなというところが本当に正直なところありまして、例えばこの項目がもし今回の再編スケジュールでもしない状態であれば、まだない方向に持っていけないのかなということもすごく考えたのですが、不可能なのでしょうか。

○真如教育長 学校教育部長。

○田村学校教育部長 ありがとうございます。

ここ何年かずっと考えてきたところでありますけれども、やはりこの先に小規模校になっていく予測がつくところは、小規模校なりのメリットももちろんあるとは思いますが、やはりある一定数の数を持って、クラス替えもできる、そういった環境の中でお子さんたちには東大和市の小学校、中学校時代を過ごしていただきたいというのがあり、この順番でいくと最後になりますが、この先を見ていくとどうしてもその2校については小規模校になっていって、近いところでお互いが小規模校になっていく。東大和市が考えるある程度の数があって活気のある学校生活というのを考えていくと、やはり15校を12校にということももちろんありますけれども、ある一定数ということで考えると、確かにそこに住んでいらっしゃるお子さん、地域の方にしてみれば、地域の学校がなくなってしまうと

というのは、衝撃的でショックな方もいらっしゃると思いますが、自分の近所に、地域にいたお子さんが今度は違う学校で頑張ってくれるというふうにぜひ考えをご理解いただいて、お子さんたちに良い環境づくりというところではご説明をしていきたいなとそのように思っております。

○内野委員 わかりました。ありがとうございます。

○真如教育長 ほかに。

岩田委員。

○岩田委員 今のお話に関連してですけれども、中学校の学区は新青梅街道で北と南で分かれているのではないですか。例えば第五中学校と第一中学校が統合したときに、第一中学校まで通うのが四、五十分もかかるという人が、第四中学校に通えば何分もかからずに通えるということで、全体としての学区を見直すことはできないのですか。人数を均等にするように、例えば中学校区を見直す。

○真如教育長 学校教育部長。

○田村学校教育部長 まだそういうことを考えられる余地はあるのだと思います。例えば、基本的には第一中学校と第五中学校が統合になるけれども、例えば第五中学校の中の本当に第四中学校に通うほうが近いお子さんのところの学区域は、例えばですけれども、今まで東大和市は新青梅街道を渡るということは今までなかったもので、また見直したときにその渡るということが本当によろしいのかどうかということになるかどうかは今の段階では申し上げられませんが、もしかしたらそこを渡って、第五中学校と第一中学校の統合はするけれども、第五中学校の一部で第四中学校に通うほうが近いお子さんは、例えば通学区域を変えることも可能性としてはゼロではないのかなとは思っています。ただ、これもまだ少し、今は基本的にはこのようにしていますけれども、そういった通学区域を見直していくということは、全くゼロではないのではないかなとは思っています。

○真如教育長 ほかにございますか。

新藤委員。

○新藤委員 現時点で最大努力というところで、市民のご理解をいただくしかないと思っています。ただ、長寿命化といっても、いつか必ず限界が来るわけですが、新しい校舎を建てたり、既存の校舎を新しく建て替えるだけでも膨大な金額がかかるので、統合だとか、さらには村山学園のような小中校舎一体型の小中一貫校、義務教育学校ですか、そういったものによって、当然大きな校舎を建てざるを得

ないですけれども、そういうことによって、一つ財政的な部分での負担を少しでも軽くしたいという発想も今後必要になってくるだろうけれども、今の時点ではそういうことを述べる必要もないかもしれませんけれども、今後考えていかざるを得ないなということで、必ずいつかは来るわけですから、そのところは頭に入れておきたいということが1点と、今後その特別支援教育の充実ということからいいますと、大分古い調査だと、五、六年前の調査、もっと前ですか、各教室に6.5%ぐらいの発達障害の子がいるというふうに出ていましたけれども、今後はもっと増えてくるだろうし、当然各学校に特別支援教室ができたということによってさらに増えてくる可能性があると思います。そのときに特別支援教室をどのようにレイアウトしていくのかなと思いました。バリアフリーの問題と、やはりICT環境が非常に重要な意味を持ってくるだろうから、従前十分に使えるような環境をつくって、ただ今ある教室を特別支援教室に転用するだけでは運用できないのではないかと思います。その辺のところについてどう考えていくのか今後の課題としてしっかり押さえておかないと、市民の理解が得られないと思います。そこで、このことが念頭にあることを広く市民に知らしめて、初めて市民は現時点で統廃合もやむを得ない、それを促進する必要があるということを理解していただける部分になると思いますので、研究は今後とも続けるべきだと思っています。

以上です。

○真如教育長 ほかにございますか。

(発言する者なし)

○真如教育長 それでは、質疑を終了いたします。

お諮りいたします。

日程第3、第2号議案 東大和市立学校の適正規模及び適正配置等の方針(案)及び東大和市立小・中学校再編計画(案)について、本件を承認することでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○真如教育長 まだまだ課題があると思います。引き続きよろしくお願ひします。

それでは、ご異議なしと認め、第2号議案 東大和市立学校の適正規模及び適正配置等の方針(案)及び東大和市立小・中学校再編計画(案)について、本件を承認と決めます。

◎日程第5 第3号議案 東大和市学校運営協議会規則

◎日程第6 第4号議案 東大和市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則

○真如教育長 日程第5、第3号議案 東大和市学校運営協議会規則、日程第6、第4号議案 東大和市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について、以上、2件は関連がありますので、一括して議題に供します。

議案の説明をお願いいたします。

学校教育部参事。

○佐藤学校教育部参事兼教育指導課長 ただいま議案となりました第3号議案 東大和市学校運営協議会規則及び第4号議案 東大和市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について、提案理由並びに内容をご説明申し上げます。

まず、第3号議案 東大和市学校運営協議会規則につきましては、東大和市立学校に学校運営協議会を設置するために必要な事項を定めるものであります。

なお、一般的には、この学校運営協議会を設置している学校をコミュニティ・スクールという言い方と称しております。

第4号議案 東大和市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則につきましては、東大和市学校運営協議会規則により設置した学校運営協議会を本規則の学校評価に関する規定等に追加する必要があることから、規則の一部を改正するものであります。

それでは、それぞれの規則の内容につきまして、ご説明を申し上げます。

最初に、第3号議案 東大和市学校運営協議会規則であります。

第1条は、本規則の趣旨を定めたものであります。

第2条は、協議会の目的として、保護者と地域住民等の学校運営への参画と支援及び協力を促進し、学校運営の改善や児童・生徒の健全育成に取り組むこととしております。

第3条は、協議会の設置に関して必要な事項を定めたものであります。

第4条は、学校運営等に関する基本的な方針の承認について定めたもので、校長は教育課程の編成、学校経営、組織、予算、施設及び設備のそれぞれの関することについて、毎年基本的な方針を作成し、協議会の承認を得なければならないとしたものであります。

第5条は、学校運営等に関する意見について定めたもので、協議会は学校の運営に関する事項について、教育委員会また校長に対して意見を述べるができるとしたものであります。

第6条は、住民の参画促進等のため、協議会は学校の運営や協議結果を積極的に情報提供するよう努めるものとしたものであります。

第7条は、協議会は運営状況について教育委員会に報告をしなければならないと定めたものであります。

第8条は、協議会の適正な運営を確保するために必要な教育委員会としての役割について定めたものであります。

第9条は、委員の任命について定めたもので、委員の定数は1校15人以内とし、各学校長の推薦に基づき教育委員会が任命するとしたものです。また、委員は地方公務員法第3条第3項第2号に定める特別職の非常勤の職員となります。

第10条は、任期について定めたもので、委員の任期は1年とし、再任を妨げないとしたものであります。

第11条は、委員の守秘義務等について定めたものであります。

第12条は、委員の解任について定めたものであります。

第13条は、協議会の会長及び副会長について定めたもので、選出は互選とし、会長は協議会を代表し、会務を総理するとしたものであります。

第14条は、会議の開催、議事等について定めたものであります。

第15条は、会議の傍聴について定めたものであります。

第16条は、学校運営等に関する評価及びその情報提供について定めたもので、協議会は運営状況等について、毎年度1回以上の評価を行うとともに、保護者等に対して情報提供に努めるものとしたものであります。

第17条及び第18条は、協議会の運営について定めたもので、本協議会の庶務担当を対象学校としたものであります。

第19条は、研修について定めたものであります。

第20条は、この規則の定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は教育長が定めるものとしたものであります。

附則につきましては、規則の施行期日を令和2年4月1日からとしたものであります。

続きまして、第4号議案 東大和市立学校の管理運営に関する規則の一部を改

正する規則の内容につきましてご説明申し上げます。

本議案には、2つの改正内容がございます。

1つ目は、本規則の学校評価に関する第27条第3項及び学校運営連絡協議会に関する第28条第1項におきまして、先ほど第3号議案でご説明申し上げた東大和市学校運営協議会規則の制定に伴い、関係事項及び文言の整理を図ったものであります。

2つ目は、政令及び省令の一部改正により、本規則全体を通しての条ずれを修正するものでございます。

説明は以上でございます。どうぞよろしくようお願い申し上げます。

○真如教育長 説明が終わりました。

ご質疑があれば、ご発言をお願いいたします。よろしいですか。

(発言する者なし)

○真如教育長 それでは、質疑を終了いたします。

お諮りいたします。

日程第5、第3号議案 東大和市学校運営協議会規則について、本件を承認することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○真如教育長 ご異議なしと認め、第3号議案 東大和市学校運営協議会規則について、本件を承認と決めます。

引き続き、お諮りいたします。

日程第6、第4号議案 東大和市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について、本件を承認することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○真如教育長 ご異議なしと認め、第4号議案 東大和市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について、本件を承認と決めます。

◎日程第7 第5号議案 東大和市いじめ問題対策連絡協議会委員の
任命及び委嘱について

○真如教育長 日程第7、第5号議案 東大和市いじめ問題対策連絡協議会委員の任命及び委嘱について、本件を議題に供します。

議案の説明をお願いいたします。

学校教育部参事。

○佐藤学校教育部参事兼教育指導課長 ただいま議題となりました第5号議案、東大和市いじめ問題対策連絡協議会委員の任命及び委嘱について、提案理由並びに内容をご説明申し上げます。

東大和市いじめ問題対策連絡協議会は、東大和市いじめ防止対策推進条例第10条第1項の規定により設置するもので、本協議会は同条同項において、学校、教育委員会、小平児童相談所、東大和警察署、その他の関係者で構成すると規定されております。また、東大和市いじめ問題対策連絡協議会規則第2条第2項におきまして、協議会の委員は東大和教育委員会が任命し、または委嘱することの規定に基づきご提案申し上げます。

それでは、任命または委嘱する委員につきましてご説明申し上げます。

なお、委員の所属、役職及び任命または委嘱の区分は記載のとおりでありますので、説明は省略させていただきます。

東大和市いじめ問題対策連絡協議会委員として、学校からは吉行一敏氏、小野隆一氏の2人を、教育委員会からは田村美砂、佐藤洋士の2人を、小平児童相談所からは平見歩氏1人を、東大和警察署からは熊谷篤志氏1人を、その他の関係者からは宮本浩二郎氏、岩本尚史氏、鈴木礼子氏、新海隆弘氏、嶋田淳氏、伊藤一三氏、宮川由美氏、原徹子氏の8人の合計15人について、任命または委嘱をお願いするものでございます。

説明は以上でございます。どうぞよろしく申し上げます。

○真如教育長 説明が終わりました。

ご質疑があれば、ご発言をお願いいたします。

学校教育部参事。

○佐藤学校教育部参事兼教育指導課長 大変申し訳ありません。今ご説明をさせていただきましたところに、お一人お名前が抜けておりましたので、大変申し訳ございませんでした。志村明子氏を入れてございましたので、追加をさせていただきたいと思っております。

大変失礼いたしました。どうぞよろしく申し上げます。

○真如教育長 その他の関係者というところですね。

○佐藤学校教育部参事兼教育指導課長 失礼しました。その他の関係者のところです。

○真如教育長 ほかにございませんか。

新藤委員。

○新藤委員 いじめ問題対策連絡協議会はこれで良いのかもしれませんが、もし何か起こったときのことを考えて精神科医の専門家の方を確保していく必要はないのかなと思いました。やはりいじめの問題というのはなかなか深刻で、大きなことが起こらなければ良いですけれども、重大事態になりますと、やはり精神的な問題、PTSDがあるので、精神科医のアドバイスを受けるということもあっても良いのかなと思うので、委員にいらなくてもそういう方の確保はどう考えられるのか、お考えがあれば聞かせていただければと思います。

○真如教育長 学校教育部参事。

○佐藤学校教育部参事兼教育指導課長 ありがとうございます。

今、お話のありました精神科医等の心理の部門という位置づけになるのかなと認識をさせていただいておりますけれども、まず本日ご提案をさせていただいているいじめ問題対策連絡協議会については、いじめ問題に関係をする部署の連携を図る場であるという位置づけで協議会の設置を行ってございます。条例、そして規則で規定をしてございますもう一つの合議体として、東大和市教育委員会いじめ問題対策委員会というのがございます。そちらのほうでは、心理に関する専門的な知識を有する者という位置づけの専門家を入れて、この委員会のほうでは、実際のいじめ問題対策に関する各種の協議を進めてまいりたいと考えております。こちらの委員会の委員の委嘱については、次回の定例会でまた委員についてお諮りをさせていただきたいと考えておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

以上であります。

○真如教育長 ほかにございますか。

(発言する者なし)

○真如教育長 ないようですので、先に進みます。

質疑を終了いたします。

お諮りいたします。

日程第7、第5号議案 東大和市いじめ問題対策連絡協議会委員の任命及び委嘱について、本件を承認することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○真如教育長 ご異議なしと認め、第5号議案 東大和市いじめ問題対策連絡協議会委員の任命及び委嘱について、本件を承認と決めます。

◎日程第8 第6号議案 令和2年度東大和市学校給食事業計画
(案)及び令和2年度東大和市学校給食会計予算(案)の諮問について

○真如教育長 日程第8、第6号議案 令和2年度東大和市学校給食事業計画(案)及び令和2年度東大和市学校給食会計予算(案)の諮問について、本件を議題に供します。

議案の説明をお願いいたします。

学校教育部長。

○田村学校教育部長 ただいま議題となりました第6号議案 令和2年度東大和市学校給食事業計画(案)及び令和2年度東大和市学校給食会計予算(案)の諮問についてにつきまして、提案理由及びその内容のご説明を申し上げます。

本件は、令和2年度東大和市学校給食事業計画及び令和2年度東大和市学校給食会計予算を策定するに当たりまして、東大和市学校給食センター設置条例第7条の2第1項に基づき、東大和市学校給食センター運営委員会に諮問するものであります。

詳細につきましては、給食課長からご説明いたしますので、よろしくをお願いいたします。

○真如教育長 給食課長。

○斎藤給食課長 それでは、私のほうから詳細のほうをご説明申し上げたいと思います。

まず、令和2年度東大和市学校給食事業計画(案)につきまして、ご説明をさせていただきます。

1ページをお開きください。

1ページ、第1、学校給食法の目的、第2、学校給食事業の主旨、第3、学校給食センターの稼働日、第4、年間給食日数、第5、栄養摂取基準及び食品構成につきましては、法令等基準の変更等ございませんので、昨年同様となっております。

2ページをお開きください。

第6、給食費、こちらにつきましても改定はしてございませんので、昨年と同額となっております。

続きまして、令和2年度東大和市学校給食会計予算（案）につきましてご説明をさせていただきたいと思いますが、昨年と比較いたしまして若干ですが変更点がございますので、先にそちらのほうのご説明を申し上げたいと思います。

本資料、予算書の最後につけてあります給食会計予算における支出科目の主食費と副食費の科目についてという資料のほうをご覧ください。右上に別紙となっているものでございます。

まず、こちら、現状ですけれども、今年度までは支出科目について、主食、副食費、この2つに分けてございました。その際、価格変動等によりどちらかに不足が生じた場合に、反対側から流用するという手続を行う必要がございました。

こちらにつきまして、予算のつくり方といたしまして、各市、多摩地区の状況を調査いたしましたところ、当市以外は全て1つで行っているということがわかりまして、主食費と副食費を分けているのが東大和市のみという結果でございました。この科目を分けないメリットといたしましては、例えばお米の価格が高騰しても、通常どおり給食費の中から賄うということで流用の手続等を省くことができますので、そういったことでより円滑な運営を行うことができるという点にございます。

この主食費と副食費、東大和市が分かれていた理由ですが、過去の資料を遡って調べたのですけれども、現存する資料で平成23年度分までしかなかったのですが、その中でなぜ分けているのかという点につきましては、申し訳ございません、確認はできませんでした。ただ、その中で他市の状況を見ましても、もしくはうちの現状を鑑みましても、特にそれを分けておく必要性というものが想定されませんでしたので、各市の状況を踏まえまして、より円滑な運営を行うため、令和2年度の予算からは主食費と副食費を分けない運用としたいと考えまして、今回予算案の構成を変更させていただいております。各種予算の金額につきましては、考え方は従前どおり前年の比率で割り返したものとなっております。

それでは、予算書、令和2年度東大和市学校給食会計予算書（案）、こちらのほうのご説明を申し上げます。

予算案の1ページをお開きください。

まず、上段の表が収入の総括表となっております。科目1の給食費は、本年度

予算額、令和2年度予算額3億2,587万円、2の繰越金は1,000円、3の諸収入は10万9,000円で、合計3億2,598万円であります。前年度と比較いたしまして、311万5,000円の減額となっております。これは生徒及び職員数等の見込みが前年度見込みより減となったことによるものでございます。

続きまして、下段の表、支出の総括表となっておりますが、科目1、給食費、こちらのところが今までは主食、副食分かれてございました。給食費でございますが、本年度予算額、令和2年度予算額は3億2,598万円で、前年度と比較いたしまして311万5,000円の減額であります。

2ページのほうをお開きください。

こちらは、収入支出予算の事項別明細であります。

上段の収入のほうの表をご覧ください。

科目1の給食費の1、現年度給食費は、本年度予算額、令和2年度予算額3億2,349万1,000円で、前年度と比較して317万4,000円の減となっております。

3ページの左半分に学校及び給食センターの金額内訳を掲載しております。また4ページに各学校の現年度給食費の内訳を掲載しておりますので、後ほどご覧いただきたいと存じます。

2の過年度給食費でございますが、これは平成30年度、31年度に発生した給食費の滞納分で、本年度予算額は237万9,000円で、前年度と比較して5万9,000円の増となっております。

5ページに給食センター分の現年度給食費、過年度給食費及び試食会代金の資料を掲載しておりますので、後ほどご覧いただきたいと存じます。

下段の表をご覧ください。

支出科目、こちらのほうも主食、副食が給食費としてあります。1番、給食費であります。本年度予算額は3億2,598万円で、前年度と比較いたしまして311万5,000円の減額でございます。

3ページの右半分に支出科目の内訳を掲載しておりますので、後ほどご覧いただきたいと存じます。

以上で説明のほうを終わらせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

○真如教育長 説明が終わりました。

ご質疑があれば、ご発言をお願いいたします。

岩田委員。

○岩田委員 以前会議の中で、給食内容の充実のために給食費を上げるお話が出ていたと思うのですが、令和2年度については、今までどおりということでもよろしいですか。

○真如教育長 給食課長。

○斎藤給食課長 以前お話しさせていただきました給食費の改定につきましては、10円上げたほうが良い、20円上げたほうが良い、はたまたそのままだほうが良いと、各給食センター運営委員さんとあと学校の保護者の方、そういった方たちのアンケートの中で、ほとんどの方で20円が良いという方、その中で10円が良いという方もいらっしゃいました。昨年の8月に給食費の公会計化に関するマニュアルが出たりしており、給食費を取り巻く環境の変化がございましたことから、再度このことを踏まえて検討をしている最中がございますので、改めてまた詳細な案ができましたら皆さまのほうにお諮りするようにはいたしたいと考えております。以上です。

○真如教育長 ほかにございませんか。

(発言する者なし)

○真如教育長 それでは、質疑を終了いたします。

お諮りいたします。

日程第8、第6号議案 令和2年度東大和市学校給食事業計画（案）及び令和2年度東大和市学校給食会計予算（案）の諮問について、本件を承認することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○真如教育長 ご異議なしと認め、第6号議案 令和2年度東大和市学校給食事業計画（案）及び令和2年度東大和市学校給食会計予算（案）の諮問について、本件を承認と決めます。

◎閉会の辞

○真如教育長 以上をもちまして、本日予定しておりました議事日程は全て終了いたします。

これをもちまして令和2年第1回東大和市教育委員会定例会を閉会いたします。

午後 3時18分閉会

以上の会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため、ここに署名する。

東大和市教育委員会教育長 真如 昌美

会議録署名委員 岩田 圭子